

答辞

冷たい風の中にも、柔らかな日差しが注ぎ、春の訪れが感じられるようになりました。今日は、わたくしたち卒業生のためにこのような心温まる式を挙げて頂き、心より感謝申し上げます。また、ご出席を賜りましたご来賓の皆様、卒業式を設けてくださった教職員の方々、保護者の皆様に、卒業生百六十三名を代表し、お礼申し上げます。

三年前、真新しい制服に身を包み、この体育館で入学式を行ったわたくしたちは、これから始まる新たな生活に心躍らせていました。新しい通学路、乗りなれない大きな自転車。無事に学校につけるのか、上手くクラスに馴染めるのか不安でなりませんでしたが、春の遠足や日々の生活を通してクラスメイトと少しずつ打ち解けていきました。

二年生になり、部活動では先輩となりました。試合や大会で思うような結果が出ず悔しい日もたくさんありましたが、仲間と協力し切磋琢磨し合うことで充実した部活動を送ることができました。三年生が引退し、わたしは、吹奏楽部で、先輩という存在の大きさを痛感しました。上手くまとめられず悩んだ日や、後輩が上手に吹けるようになった日、たくさん叱られた日のことを今でも鮮明に覚えています。

いよいよ最高学年になり、「受験生」「学校の顔」という大きなものを背負いながら、中学校最後の一年が始まりました。新緑まぶしい五月、わたくしたちが一番楽しみにしていた修学旅行です。京都の歴史的な町並み、大阪独特の雰囲気や食べ物に触れる中でクラスの絆が深まっていきました。友達と特に理由もなく買ったお土産、大阪・新世界で作った真っ黒なお好み焼き、様々なことを経験した一生忘れることのない二泊三日となりました。

暑さが厳しくなり始めた七月、部活動では、中学校最後の大会が近づき、私は、より一層吹奏楽にのめり込んでいました。一月の新人戦で県代表の座に立ったということもあり、高い目標を掲げて、練習しました。結果、県代表に輝くことはできませんでしたが、それ以上に大きなものを学ぶことができました。引退まで導いてくださった顧問の先生方、送迎や差し入れ、休日のお弁当など様々な面でサポートして頂いた保護者の皆様に感謝の思いでいっぱいです。

残暑残る九月。一大イベント、運動会がやってきました。「ALL STARS」のスローガンのもと、「獄狐獣魂」「青藍嚙鯨」「麟鳳亀竜」「翠牙霸王」「紫鴉襲獣」。どの団も確かに躍動しました。競技に全力で取り組み、学年関係なく全力で応援しました。一番力を入れて取り組んだアピールタイムでは、各応援リーダーを中心に、短い期間でダンスを考え、お互いに教え合って、一生懸命覚えました。せっかく形になったダンスを一から考え直したこともありました。隣の団のダンスが気になり練習にならない日もありました。それでも、本番に近づくにつれ、クラス、団が一つになり声も出るようになってきました。煌めく太陽の下で、ひたすら叫び、思いっきり笑った運動会はまさに青春で、最高の思い出です。

秋の気配を感じる十月、文化祭。合唱の練習を始めた頃は、そもそも大きな声が出ない、自分のパートの音がよくわからない、他のパートにつられてしまうなど多くの問題がありました。しかし、毎日練習を積み重ねることで、着実に上手に歌えるようになっていきました。本番は、一番を決めることができないほどレベルが高く、三年間の思いが込められた合唱になりました。また生徒会では、音楽の力をテーマにしたストーリーを企画し運営しました。後期最初にして最大のイベントでしたが一人一人が自分の役目を果たすことができました。

こうして振り返ると、長いようでとても短く濃い三年間でした。いろいろなことがありましたが、どれもかけがえのない思い出ばかりです。この三年間は、わたくしたちの力だけではなく、多くの方々のおかげで、改めて感じます。

いつも親身に寄り添ってくださった先生方。優しく、ときには厳しく、そして丁寧に、わたくしたちが成長するために導いてくださいました。いつも美味しく栄養バランスの完璧な給食を作ってくくださった調理師、調理員のみなさん、わたしは毎日給食が楽しみでした。今までわたくしたちを様々な面から支えて頂いた全ての教職員の皆様、本当にありがとうございました。

在校生のみなさん。今この場所で、この時間を共にできないのは残念ですが、部活動や運動会、学校生活を一緒に盛り上げてくれて本当にありがとうございます。今後、みなさんがこの津幡中学校の伝統を受け継ぎ、さらに良い学校にしていってください。心から応援しています。

一緒に卒業するみんなへ。この三年間、僕は本当に幸せでした。くだらないことで爆笑した日々、どんなことであんなに笑ったかは全く覚えていないけれど、ただあの時間が僕は大好きでした。みんなと離れてしまうのはさみしいけれど、四月からはそれぞれが選んだ場所でそれぞれの夢にむかって頑張ろう。今まで本当にありがとう。

いつもわたくしたちを一番近くで支えてくれた家族へ。意見が食い違い反発し、正直、嫌になる日もたくさんありました。それでも、生まれたときからずっと変わらない愛情を注いでくれたから、今この場に立つことができます。三年前より少しは大人になれていますか？ まだまだ未熟ではありますが、これからは自分で選んだ場所で、誰かを想い、誰かを支えられる人になります。どうか、わたくしたちが立派に成長し、周りから愛される人間になるまで見守ってください。

最後に、泉校長先生はじめ、全ての教職員の皆さん、地域の皆様、家族、多くの方々の支えがあって、わたくしたちは今日、こうして卒業の日を迎えることができました。三年間、支え、導いてくださった全ての方々に卒業生一同、心より感謝申し上げます。皆様方のご多幸と津幡中学校のさらなる発展を願い、答辞といたします。

令和七年三月十四日 卒業生代表

山田 想

